
 資 料

日本人間性心理学会創設に参加とこれからの発展

——人間理解のための幅広い学際的学会のイメージ——

村山正治*

創設の経緯

日本人間性心理学会は1993年12月8日に「人間性心理学研究」創刊号を発刊して実際の旗揚をしました。私は編集局長を勤めました。「人間性心理学刊行同人」が畠瀬稔ら先輩諸氏の努力で成立し、同人が拠金をして刊行した思い出深い創刊号なのである。本誌は1982年7月11日に発会した「日本人間性心理学会」の機関誌になることになった。(畠瀬稔1983年7月7日。創刊のことば)

2021年9月に40回記念大会が九州大学教育学部金子周平教授を大会委員長で開催された。本学会が学会員1000名を越えるまでに成長発展してきたのは感慨深いものがあるし、私も同人の一人として、学会員の一人として、また名誉会員の一人として40周年記念大会が九州大学で開催されることにここからお祝いを申し上げます。

1978年10月、遠藤辰雄九州大学教授を大会委員長とする日本心理学会第42回シンポジウム「我が国におけるヒューマニスティック心理学の現状と課題」(村山は大会事務局・シンポジストを務めた)、翌年も同名のシンポが1979年9月24日に四谷主婦会館で開催された。水島恵一の基調講演、中西信男、山下栄一、村山正治が話題提供者になっている。こうして1982年7月11日に日本人間性心理学会が誕生したのである。

この学会の設立イデオロギーは何だったのか

米国に端を発し、瞬く間に世界的潮流になる1960年代のニューサイエンス運動の流れにのって米国のヒューマニスティックサイコロジ学会が1962年に産声を上げた。発起人のマズロー、ロジャーズ、ブーゲンタールなどが、精神分析、行動主義心理学に次ぐ第三勢力として旗揚げした。精神分析は人間を過去に規定される、行動主義心理学は人間を機械として捉える人間観である。ヒューマニスティックサイコロジ学会は人間を主体的存在であり、人間を過去や機械に還元せず、全人として人間の主体性を強調したことが特徴である。ゴールドシュタインなど精神医学者など、学際的な多様な人材が集まったことも特記すべきである。

日本人間性心理学会も20年おくれて、ニューサイエンス時代に入る。水島恵一、畠瀬稔はじめ、現象学、人間学、哲学、社会学、仏教や東洋思想などに関心のある学者達が集まった。それまでのニュートン・デカルトパラダイムだけの自然科学的心理学に「人間不在」を感じた多様な領域の学者達が集まって創設したものである。私自身の本学会創設に参加した動機は「人間不在」の心理学への不満だけでなく、人間理解のための幅広い学際的学会のイメージを持っていた。私の勧誘で京大人文研の人類学者藤岡喜愛、東工大の社会学者上田紀行などの参加が異色でした。

*東亜大学大学院 総合学術研究科

これからの発展に期待

私の九大・九産大・久留米大・東亜大の村山ゼミの仲間たちがこれまで、エンカウンターグループ、PCAグループ フォーカシング、PCAGIPの研究、実践活動を通じて本学会の発展に貢献してきました。また現在も本学会を支える中核となって活躍している人が多数いる。

これらを基盤にこの人類の大転換期に人間性心理学は何を提供できるのだろうか。最近の院生たちと接触すると、ニューサイエンス運動のことはあまりご存知ない。ニュートン・デカルトパラダイムが唯一の科学論であり、方法論重視の傾向が強い。認知行動の科学が主流になっている。また60年代にはまだ発展していなかったICや人工頭脳、脳科学の発展にどう対応していくのだろうか？

もう一度日本人間性心理学会創設の原点に戻って、この学会の創設のときのイデオロジー、存在意義を改めて議論していく必要性を感じている。私自身の進む方向はすでに提案している。(村山正治(2021) パーソンセンタードアプローチとオープンダイアローグの出会いから生まれてくるもの—21世紀の新しい心理臨床のパラダイムを求めて— 32-56 遠見書房)。

原点の確認

また新しいパラダイムを求めて、最近、「人

間性心理学研究」の創設号を改めて読む機会があった。驚いたことに、水島恵一の「人間学」に圧倒されるような迫力・気力を感じた。水島の1983年の提案はとても新鮮である。「人間学も人間性心理学も安易に方法論を定めるべきものでなく、あくまで眼前の個々の人間を見据え、あるいは交わりとしての実践に取り組む中で熟してくるものである。」という提言は人間性心理学を志すものにとって核心を突く指摘であると感じた。是非、水島；「人間性心理学の方法と展望」(1983、人間性心理学研究 創刊号8-20)をお勧めしたい。(2021・05・05記)

参考文献

- 1 梶瀬稔(2012) 日本における人間性心理学の歴史 人間性心理学会編人間性心理学ハンドブック 30-38 創元社
- 2 野島一彦(2012) まえがき 日本人間性心理学会編人間性心理学ハンドブック 創元社
- 3 村山正治(2021) 知の伝承 動画 金子周平編 日本人間性心理学会第40回大会記念企画 「知の伝承」シリーズ 日本人間性心理学会

注 本稿は金子周平 日本人間性心理学会第40回大会記念企画「知の伝承」の招待原稿として提出したものである。ところが、金子周平との対談は原稿とほとんど関係ない予想外の充実した展開となり、村山としては大変満足のいく内容が生まれて大満足でした。大会中のオンデマンド聴取完了者が100名を超えた盛況との報告を事務局からいただきました(参考文献3)。

そこで動画とは異なる未公表の本稿を紀要に掲載することにしました。金子大会委員長の了承を得ている。